

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大牧小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	知識・技能の定着を繰り返し学習だけに頼らず、学びと日常生活の関連など、他の事象と結び付けながら、多角的な学びの中で定着を図り、活用できる知識の定着をめざす。そのためにも、学年内やブロックなど様々な集団の中での教材研究や授業改善を行っていく。
思考・判断・表現	学んだ事を活用する場面を増やし、どのように活用するのか、いつ活用するのかなど、思考・判断するプロセスを大事にする。ふり返りなどで形成的評価をし、そのプロセスの内容の向上を図る中で、表現力を磨き上げていく。このような教師の関わりを持続可能なものにするためにも、思考する場面におけるICT活用の学び合いの時間の設定や教職員研修を実施する。
主体的に学習に取り組む態度	学びの自律化に向けた授業改善をより進め、「自分にあった学び方、教材、学習時間」になるような授業展開を考えていく。また、学習場面だけでなく、学校生活全般において「自分で考えて決める」適切な場面や状況を増やしていく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・算数において、「知識・技能」の領域で昨年度の自校結果より2ptの向上をめざす。	⇒ 課題克服応援シートを活用した朝学習、「ドリルパーク」、「スタディサプリ」等を活用した漢字や計算の反復・習熟に取り組む。その際、児童の学習履歴を活用し、児童が目的をもって取り組み、個別最適な学びになるよう支援する。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・算数において、「思考・判断・表現」の領域で昨年度の自校結果より2ptの向上をめざす。	⇒ 言葉と図などを複数の事象と関連付けた指導や、共同編集やグループの話合い活動等を通して、思考のプロセスを可視化し、自分の考えが表現できるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査の「課題の解決に向けて、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を85%以上をめざす。	⇒ 「習得→活用→探究」を意識した学習計画を児童と一緒に作成し、学びに課題意識をもたせた授業を行う。また、学習の振り返りを行い、その積み重ねから、自分の考えの変容に気づかせられるようにする。

<小6・中3> (4月～5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	異集団の経年変化と同集団の経年変化ともに、昨年度と比べるとアップしたが、1ポイント未満であり、目標の2ポイントアップには至らなかったが、基礎・基本の定着を引き続き果たすことができた。	C
思考・判断・表現	異集団の経年変化では、昨年度と同等の結果となったが、同集団の経年変化では、1ポイント未満、昨年度より下回った。目標の2ポイントアップには至らなかったが、ICTを活用した思考力、判断力、表現力の向上を目指す授業展開の研修を進めるなど授業改善に取り組んだ。	C
主体的に学習に取り組む態度	肯定的な回答は、9割を超え、目標を達成することができた。「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」学びのポイント」などを踏まえた、探究的な学びを教科横断の視点をもって展開するなど、学びの自律化に向けた学年や研修組織での授業改善の成果があらわれた。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	国語、算数ともに、全国・市の平均正答率を上回った。国語で昨年度と比較可能な「言葉の特徴や使い方に関する事項」では正答率を上回った。算数では、昨年度、課題としていた割合の問題で全国平均より上回っている。問題は違うが、基礎・基本の定着を図った効果が見られた。
思考・判断・表現	国語、算数ともに、全国・市の平均正答率を上回った。国語では課題となっている「書くこと」の問題で、全国平均との差が小さくなっている。記述式の問題では、「自分の考えをまとめる」問題での無解答率が昨年度より増えたが、全国平均正答率を大きく上回っている設問もある。算数では筆算の構造的な理解や複数のグラフの読み取りを算数的表現を使って記述することに課題が見られた。
主体的に学習に取り組む態度	児童質問紙の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」に9割以上の児童が肯定的な回答をした。また、「自分で計画を立てて勉強をしていますか。」に約8割の児童が肯定的な回答をした。「自律的な学び」を定着するような単元構想や手立てを今後も追求していきたい。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	国語では主語と述語の関係を理解することや、無解答率が市平均より多いことが課題である。算数では時刻の求め方や単位の関係について理解することに課題がみられる。知識の定着を図るためにも、学習してきたことと日常生活を結び付けていくことをより意識していきたい。	小4	国語では、「話すこと聞くこと」「書くこと」の平均正答率が高く、日頃の授業での成果が発揮できた。算数ではデータ活用やグラフの読み取りに課題がみられ、一般的に無解答率の多さが目立つ。他教科との関連を図り、学んだ事を使いながら、学びの定着をめざしていきたい。
小5	国語、算数、社会は概ね基本的な理解がみられ、算数の同集団経年変化でも前年度より上回っていた。特に、算数の「思考・判断・表現」は成果がみられた。理科は下学年で学習した内容の問題が多い中で、課題がみられた。スパイラルを意識した学習を行うことで、学びの定着をめざしたい。	小6	国語は、領域や観点別どちらも成果がみられた。同集団の経年変化では、知識・理解に大きな成果がみられた。算数の「図形」や「変化と関係」の領域、社会の「歴史」の領域で課題がみられた。基盤となる知識の定着と、それを活用する学びを両輪にして取り組んでいきたい。理科では「地球」を柱とする領域で成果がみられた。地球環境に対する問題意識を教科横断的な学びの中で深めた成果があらわれた。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし